

令和5年度 第2回 調布市子ども発達センター運営会議 議事録要旨

日 時 場 所	令和6年2月5日(月) 午後3時～4時30分 Zoomを使用したWeb会議
出 席 者	1 運営会議委員 出席：10人 欠席：2人 2 オブザーバー 2人 3 事務局 7人
議事次第	1 センター長あいさつ 2 委員・事務局等紹介 3 議題 (1) 令和5年度実施状況について (2) 令和6年度の各事業の方針について (3) その他 4 配付物 資料1 令和5年度利用状況について 資料2 令和6年度の各事業の方針について 資料3 調布市子ども発達センター運営会議要綱 資料4 調布市子ども発達センター運営会議委員名簿 参考資料1 調布市発達相談ガイド「お子さんの発達が気になったら手に取るガイド」 参考資料2 指定場所送迎事業(巡回バス)の改定について
議事	1 センター長あいさつ 2 委員・事務局等紹介 (1) 委員及び事務局の紹介 (2) 事務局から本会議の趣旨を説明 (3) オブザーバーの出席承認 3 議題 (1) 令和5年度実施状況について ●実施状況について(令和3年度から令和5年度までの数値 ※令和5年度は、令和5年12月31日時点での数値) ア 利用人数 通園事業41人 発達支援事業584人 合計625人 イ 発達支援事業の事業別利用人数(延べ数) 事業を重複して利用したり、年度途中で利用事業を変更した場合、それぞれに延べ数として記載。 運動療法グループ11人

1歳児グループ0人 2歳児グループ45人 幼児グループ19人
3・4・5歳児の親子グループ62人 作業活動グループ25人
個別の言語・心理療法372人 個別の運動療法30人
個別の作業療法21人 合計585人

ウ 新規利用相談

相談児数405人 初回相談数263人 利用申請数186人

相談児数とは、全ての相談、電話相談や検査、報告書作成、他機関との連携等が含まれている。

エ 相談事業述べ支援数

利用相談1,282人 一般相談（小学生以上や匿名の相談）195人

在籍児相談（他機関との連携、検査や書類作成、面談等）190人

オ 発達相談コーディネーター延べ支援件数

利用相談 97人 一般相談 55人 在籍児相談 6人

カ 子ども施設訪問事業

訪問施設数 5施設 利用人数7人

キ 緊急一時養護事業

延べ利用者数 緊急一時養護事業17人 リフレッシュ支援事業126人

ク 障害児相談支援事業

計画作成件数109件 モニタリング数97件

ケ 保育所等訪問支援事業

6人 43回実施

一質疑・意見、特になし一

議事

(2) 令和6年度の各事業の方針について

令和5年度の実施状況とともにポイントを説明

ア 通園事業について

調布市社会福祉事業団に運営を委託。

今年度から、就学に向けた支援として、通園事業を卒業した先輩保護者を招き、現在通園事業を利用している保護者とともに、情報を共有し合う「あゆみのつどい」を開催した。保護者会も、保護者全員が一堂に参加する形に戻して実施した。給食は、夏まつりや運動会等の行事のときや、希望があれば親子個別のときに試食の機会を設けた。また、食育の一環として、子どもたちが野菜の栽培や収穫を実施した。今後も、事業団との連携により安定的な運営に努め、引き続き専門性の確保と療育内容の充実を図っていく。

イ 発達支援事業について

個別療育や、43のグループ療育を実施。今年度から、運動療法を利用している0歳児から2歳児までのお子さんを対象とした運動療法グループを開設した。また、言語・心理療法の個別療育の頻度を確保するため、10月から2歳児グループ終了後のフォローグループを開設した。フォローグループには、作業療法士が入り、運動面を中心に保護者にお伝えした。来年度のグループ編成については、今年度の実施状況や利用予定児の状況を踏まえ、検討している。

ウ 相談事業について

今年度の延べ支援件数は、12月末現在 1,825件。今年度から、初回相談について担当する専門職を増員し、相談の受入れ枠を増やしたことで、申込みから初回相談までの待機時間の短縮を図った。来年度も引き続き、受入れ体制を維持する。

子ども施設支援については、療育見学会の対象施設に企業主導型保育事業所を加え、1回当たりの定員を増やして実施。今後も、地域施設との連携を深めながら、保護者がより相談しやすくなるよう、事業の運営方法や内容を見直していく。

エ 相談支援事業

相談支援員の質を向上するための研修の一環として、放課後等デイサービスなどの事業所見学を行い、各事業所の特徴や状況についてセンター内での情報共有に努めた。来年度も、保護者に寄り添いながら、利用児が地域の中で安心して生活できるよう、事業を実施していく。

オ 障害児等福祉教育連携会議

令和4年度の保護者向けアンケート調査の結果を踏まえ作成したi-ファイルの見直し案をもとに、会議の中で意見交換を行った。今後は、調布心身障害児・者親の会や保護者から意見を聞き取り、最終的な見直し案を作成していく予定。i-ファイルが子どもの健やかな成長にさらに役立てられるよう、保護者や関係機関職員への新たな周知活動や、活用につながる研修の開催などについても検討している。

カ 保育所等訪問支援事業

保育所等に通う障害児が在籍園における集団生活に適応することができるよう、作業療法士などの専門スタッフが定期的に専門的な支援を行っている。来年度からは、理学療法士もスタッフに加えて実施していく。

キ 巡回支援事業

専門職を増員し、幼稚園1園と保育園8園を訪問。継続して訪問し、毎回クラス担任だけでなく、園長や主任保育士とも振り返りを重ね、園全体でクラスの運営を考える環境づくりにつながっている。来年度も、今年度の振り返りや課題を踏まえ、引き続き実施していく。

ク 発達相談コーディネーターの配置

小・中学生の保護者からの新規相談のほか、子ども発達センターを利用していたお子さんの保護者からの相談も受けている。教育委員会のスクールソーシャルワーカーと連携して支援をしたケースもあり、コーディネート業務にも取り組み始めた。また、コーディネート業務の一環として、リーフレットも作成した。

参考資料「お子さんの発達に気になったら手に取るガイド」は、子どもの発達について支援を必要とする子育て家庭に向けて、子どもの発達に関わる支援及び制度、関係機関等の情報を共有するとともに、まだ支援を受けていない保護者に相談の動機づけを行うため、調布市発達相談ガイドを発行した。来年度も引き続き、支援サービスのコーディネートや、調布市内や近隣の地域資源などの情報収集、整理を行うとともに、子ども施設へのアウトリーチにも取り組む。

ケ その他

「第3期調布市障害児福祉計画」を含む次期「調布市障害者総合計画」の策定

に向け、計画案の検討を進めている。令和6年度から11年度までを計画期間とする新たな「調布市障害者総合計画」に基づき、障害児支援の充実に向けた取組を進めていく。

「指定場所送迎事業（巡回バス）の改定について」。現在運行している巡回バスのダイヤは、平成30年8月に改正したものであり、市内の交通事情の変化に対応するとともに、現在の療育時間の開始・終了時刻に合わせ、利用者の利便性をより高めることができるよう見直し、令和6年4月からダイヤ改正を行います。現在、利用者に時刻改正のためのお知らせを配付し、また、市のホームページにも掲載している。ダイヤ改正による混乱がないよう、周知を徹底する。

質疑応答

〈 委員 〉

「お子さんの発達が気になるときに手に取るガイド」、リーフレットを作成されたということで大変ありがたく思う。このガイドは、どこに配布をされているのか知りたい。また、小学校にお子さんがある保護者には配っているのかなど、具体的に知りたい。

〈 事務局 〉

リーフレットは、市役所3階の子ども家庭課や保育課などの子ども生活部の部署や、すこやか以外に、「ここあ」や児童館、図書館の中央館から分館まで、あと教育会館など、お子さんや保護者がいらっしゃる施設には、配架をお願いしている。健康推進課にも置いている。

小学生の保護者が手に取っていただける場所だと、青少年ステーションのCAPSや、地域福祉センター各所にも全て配架をお願いしている。あと、子育てカフェのaonaや、プレイセンター調布などにも置かせていただいている。

〈 委員 〉

できれば、全保護者が手に届くように配ってほしい。お子さんが行く場所にはあるが、保護者の目にとまり、手に取ることはなかなか難しい。手に取ってほしい人にとってもらえないと、意味がないので、必ず目に触れて、手に取ってもらいたい。小1から調布に転入した方や、支援が必要な方に情報が入っていない気がする。そのような方に渡せたり、手に取ってもらえる工夫が必要である。

〈 事務局 〉

転入なさってきた方にも目に留めていただければという思いで、子ども家庭課については、児童手当や乳幼児医療証、マル子などの手続きで行かれる方が必ずいらっしゃるのので、そちらの窓口にも配架をしている。その窓口で相談を受けた支援員にもお願いをして、保護者にお渡しいただくようにしている。

市民の皆さんの目に留まる場所で、試行錯誤をしているが、こういうところに置いてみたらいいのではないかというような御意見や御提案があれば教えていただきたい。

〈 委員 〉

親の会のホームページにも、ガイド発行のお知らせを掲載する。配布先を知りたかったので、具体的に聞けてよかった。

〈 会長 〉

いいものがあったても目につかなければもったいないので、大事な御指摘だった。何かアイデアをお持ちの方がいらっしゃったら御発言をお願いします。

〈 委員 〉

小学校に配布すると何万人ということになるので、そこは難しいかと思う。各小学校のスクールカウンセラーの相談室に配布が可能であれば、相談機関を知りたい保護者や子どもたちは多いので、検討いただきたい。

〈 会長 〉

回答できる方はいないので、お伝え願えればと思う。

〈 委員 〉

発達相談ガイドは、初回相談に来た方に配布しているか。

〈 事務局 〉

インテークでは相談につながっているため、発達相談ガイドを配布していない。

〈 委員 〉

発達相談ガイドを見たときに、「こんなのをもらえたよ」と、他につながるができると思うので検討いただきたい。

〈 事務局 〉

検討する。

〈 委員 〉

去年は親子参加をすることが、ほとんどなかったが、今年度は夏まつり、運動会、クリスマス等の行事に親子参加できた。写真では分からない、子どもが喜んでいる姿や笑顔を見ることができた。野菜の収穫や餅つき大会など、子どもたちにとって良い経験になった。また、父親が参加できる行事も多かった。今までは参加できる保護者が1名だったが、今年は父も母も参加可能という行事があり、特に餅つき大会は父親が参加し、子どもたちの違った一面の表情を見ることもできた。あゆみに通わせてもらっている保護者としては、大変ありがたい1年になった。

〈 オブザーバー 〉

ありがたいお言葉を嬉しく思う。職員と保護者の双方から、お子さんたちをみんなで見ている、嬉しい1年となった。今後も工夫していきたいと思うので、希望があれば教えていただき、保護者と一緒に取り組んでいきたい。

〈 委員 〉

親子個別の時に保護者が試食をすることができるとのことだが、その都度試食できるのか、保護者一人当たりの試食回数が制限されているのか。費用などはどうなっているのか知りたい。

〈 オブザーバー 〉

保護者にもぜひ召し上がっていただきたい、お子さんの食べているものを食べていただきたい、子どもと保護者が一緒に「おいしいね」「こういう味なんだね」と話しながら食べてもらいたいという思いがあり、始めた。親子個別に関しては、月1回行っており、今は希望があれば毎回でも試食できる。1日最大3組程度でやっており、殺到するわけでもなく、いいバランスでできている。給食費は1回300円で、食べた回数に応じて保護者から給食費を頂いている。

〈 委員 〉

一緒においしさを共有することは大事だと思うので、ありがたい限りである。

〈 委員 〉

発達支援事業では、通園事業の「あゆみのつどい」と同様の機会はあるのか。本来、スクッピー友の会で行ったり、親の会でも幼児の保護者を対象とした先輩お母さんたちとの交流の機会を設けていたが、参加人数が増えなかったため、今年度はできていないものもある。令和6年度の事業方針の中に、発達支援事業における保護者同士の活動、家族交流がないように思うので、今後の検討について伺いたい。

〈 事務局 〉

今年度、保護者同士の交流の機会を設けたが、参加人数がとても少なかった。例年、平日に行っていたが、平日だと参加が難しいと思い、土曜日に開催したり、スクッピーのオープンデーの日に合わせて交流会を行った。そちらでも参加人数が少なく、どのような開催にすれば参加者が増えるか考えている。御意見があったら教えていただきたい。

〈 委員 〉

発達支援事業や通園事業あゆみでもチラシを配布しているが、参加人数が1桁台である。平日開催が参加を促せてないと思い、土曜日にスクッピーの集いを、親の会と共同で開催したが、参加人数が2人だった。しかし、親の会が行う勉強会は参加人数が多く「親の会のような集まりがあることを知らなかった」「こういう会が、つながりがあるのがとても支えになる」など、前向きな御意見を伺う。センターで交流会を開催すると参加人数が少ないことに、戸惑いを感じている。

コロナ禍において参加を控える方もいたがコロナ禍が明けた今年度、参加が少ないのは、保育園へ通われているダブルインカムの御家庭が以前よりとても増えていることが考えられる。あとは、お子様の療育に付き添う回数が以前よりも増えていることで、時間を確保するのが難しいと感じている。発達センターでグループの説明会を4月に実施していた年があった。そういう説明会に併せて開催するなど、保護者が来なければならない時に合わせて、実施できる機会を設けて運営していきたい。そのようなスケジューリングができないか、検討いただきたい。

〈 会長 〉

建設的な御提案だったが、御回答をお願いします。

〈 事務局 〉

グループの説明というのは、お子さんが単独で通う幼児グループの説明会だと思う。以前までは、幼児グループに通う保護者全員が一堂に会し、説明会を実施していた。しかし、コロナ禍でできなくなり、今はグループごとに、初回に懇談会という形で行っている。保護者が集まった時に話し合いができるような場を設定するという事は、考えていきたいと思う。

2歳児グループにおいては、保護者同士で30分間、話しをする場を設定している。そこに専門職が入り、話を回しながら行うという時間も少しずつではあるが、設けている。今の御意見を踏まえ、考えていきたいと思う。

〈 委員 〉

1か月後に懇談会があるとチラシを出しても、参加者の確保が難しい。年間を通してイベントの提示をしたうえで、懇談会を行うなどの工夫が必要という話も聞く。今までのやり方ではなく、工夫が必要だということと、保護者が集まるときに開催できるといい。学習会後に懇談する場を設けるなどの工夫をしていきたい。

今、小学校1～3年生ぐらいのお子さんがある方は、特に孤立していないか心配である。どこにも相談できず、兄弟もいて、お母さんもいっぱい、いっぱいの方にチラシを渡しても、目に入らないと思う。届いてほしいところに届かないという、もどかしい思いをずっと抱えているので、一緒に考えていきたい。

〈 委員 〉

療育のねらいの配付について。「療育で何をしているか分からない」「グループに参加しても、何で手遊びを毎回させられるのか」という気持ちを抱いていた。療育を受ける年月が増えるたびに、手遊びも効果的だったと実感する。療育をしている時に、ねらいや目標を気づくことができなかつたので、このねらいを配付はありがたい。

〈 事務局 〉

温かい御意見ありがとうございます。これからも利用者が分かりやすい療育を目指していきたい。

〈 委員 〉

「スクッピーのオープンデー」について。今年度の告知を見て、未就学児を対象としたイメージを抱いた。通園を退園したり、発達支援を卒業した小学生のお子さんも参加できるイベントの認識だが、今年度、小学生はいたのか。

〈 事務局 〉

未就学児が対象のように思わせてしまい申し訳ない。参加された方の中に小学生のお子さんもいらっしゃり、楽しんで帰っていただいた。センターで行っているため、未就学

児が楽しめるコーナーは多いが、オープンデーであるため、小学生が来ても構わないコンセプトで行っている。

〈 委員 〉

小学生でも参加できることがわかると、交流会での中で「久しぶりに行きたい」という小学生の保護者もお誘いができる。

〈 事務局 〉

広報内容の改善に努める。

〈 委員 〉

年長に向けて、放課後等デイサービスの説明はどのようにしているか知りたい。利用していたとき、3学期に「放課後等デイサービスについて知っていますか」と、声かけられた。就学直前という段階でその話をされても、手続や施設探しがとても大変である。私の場合、先輩方から「小学生からは放課後等デイサービスがある」ことを教えてもらい、夏から探し始めることができた。今、就学児の保護者にお聞きすると「知らなかった」や、児童発達支援事業所を利用されている方も、今使っている事業所が放課後等デイサービスを運営されていないところが多いので「どうしたらいいか分からない」という声を聞くことが多い。センターの発達支援事業を利用している方は、あまり受給者証自体をお持ちでない方も多いと思うが、こういった説明をしているのか。

〈 事務局 〉

通園事業を御利用の方に関しては、保護者の方が集まる機会に放課後等デイサービスについて案内しているほか、通園事業の方はセンターで相談支援事業の計画も作成しているのので、各担当者が放課後等デイサービスの利用について確認している。

発達支援事業のほうは、全体に向けての説明はできていないが、年長児に向けて、センターの利用が終わってから利用できるサービスということで、学童や「あそびバ」、放課後等デイサービスを案内するプリントを必ず配付している。

〈 委員 〉

学童や「あそびバ」、放課後等デイサービスの説明が記載されたプリントを配付しているのか。

〈 事務局 〉

配布している。

〈 委員 〉

いつぐらいの時期に配付しているのか。

〈 事務局 〉

夏過ぎから秋初めぐらいには配付している。御質問を直接いただくこともあり、その場合は、プリントの配付とは別に、窓口で案内も行っている。

〈 委員 〉

グループだけでなく、個別を利用している年長児の方にも配付しているのか。

〈 事務局 〉

個別では担当の専門職から配付し、グループの方はグループ担当者から配布している。

〈 委員 〉

年長児の保護者から、放デイについて話を聞きたいということを伺うことが多いので、行き届いてない、気づいていないということを懸念している。センターに伺った時にでも、プリントを見せてほしい。

〈 事務局 〉

分かりました。

〈 委員 〉

保育園の障害児枠を利用されている方にも、渡っているという認識でよいか。

〈 事務局 〉

センターを利用している場合は配付しているが、障害児枠の方に、例えば保育園を通してお渡しするという事は行っていない。

〈 委員 〉

支援学級に通っている方で、放デイを知らない方がいた。どこかで周知が漏れている気がする。

〈 委員 〉

就学に関する説明会は今年度から教育委員会の主催に変わったが、センターで配付している年長児向けのチラシを配付してほしい。かなりの確率で保護者の目に入る。詳しく知りたい人には「調布市障害児・者通所施設一覧」があるので、説明会の場で、紹介をお願いしたい。

もう一点、来年度の計画として、親の会では就学説明会の直後に懇談会、勉強会を未就学児の保護者向けにやろうと思っている。その案内を就学説明会で配付したい。発達センターが主催ではなくなったことで、教育委員会がそれをできるか心配である。連携が取れるよう、お願いしたい。

〈 会長 〉

教育委員会からの発言はできないが、連携を取りプランは立てられると思う。事務局で回答は可能か。

〈 事務局 〉

今年度から、就学に関する説明会については指導室主催となっているが、来年度の連携

<p>意見交換</p>	<p>として、説明会の保育については、子ども発達センターがまた対応する。事業のスケジュールの調整をしているところではあるが、センターのプリントや親の会の懇談会・勉強会の案内などを配付するということも含め、今後も指導室と連携しながら、説明会をよりよいものにしていきたい。いただいた御意見も共有し、来年度の取組につなげていきたい。</p> <p>(3) その他</p> <p>〈 会長 〉</p> <p>御意見、情報提供を出していただき、それについて意見交換を行う。議題にとらわれない発言をお願いします。</p> <p>児童館、あるいは保育園の立場から何かあるか。</p> <p>〈 委員 〉</p> <p>「お子さんの発達が気になったら手に取るガイド」や、発達相談コーディネーターのチラシは「こういったところもあります」と案内しやすいようにつくってあるので、保護者とお子さんのことを話すときに、必要と思われる御家庭に活用している。掲示板には発達相談ガイドを自由に取れるよう設置している。</p> <p>〈 委員 〉</p> <p>発達相談ガイドを手にとれるところに置いたことで、子育てひろばに参加された方が見て、持ち帰られる方もいる。</p> <p>〈 会長 〉</p> <p>前年度に比べて一步一步前進していると感じた。課題がないわけではないが、一つ一つの課題を乗り越えながら進んでいく予感がした。今日のやり取りは、いい関係ができていると思い、これを継続できるといい。</p> <p>手遊び等のねらいや内容の話は、他の保育園や児童館でも同じことが言え「泥団子を作るだけで何の意味があるのか」を説明することが大事。子どもを支援する行為は、見て分からないところがあるので、可視化してそれを説明し、それがよかったという発言がありよかった。</p>
<p>事務連絡</p>	<p>〈 事務局 〉</p> <p>子ども発達センターの運営会議は年に2回開催しており、令和5年度については今回で最後となる。来年度の第1回の日程については、夏頃を予定している。</p> <p>本日お集まりいただいている委員の皆様は、この3月31日で任期が終了となる。新しい委員の推薦については、次年度改めて依頼文を送付する。</p> <p style="text-align: right;">—了—</p>